

「まずやってみよう！」のパワーが行政を動かす～川添なのはなクラブ(大分県大分市)

大分市は、平成15年度のスポーツ振興審議会で「大分市版総合型地域スポーツクラブづくり」の答申を受けて、まず、市内5地区にモデルクラブを創設する計画を立て、日体協の委託事業、「育成指定クラブ」を受託しました。

5地区の一つで大野川の東岸に位置する川添地区は少子高齢化が進む中、従来から住民連携の絆が強い地域です。川添地区は平成17年度の日体協・育成指定クラブを受託し、2年間かけて「全戸会員クラブ」の川添なのはなクラブ(以下、なのはなクラブ)を創設しました。

総合型地域スポーツクラブでは活動拠点となるクラブハウスや体育館、グラウンドが必須要件ですが、川添地区には小学校が1つで体育館、グラウンド、公民館があるのみです。

そこでクラブ関係者が考えたのは、クラブハウスとグラウンドづくりです。「みんなで創ろう！」を合い言葉に、平成17年度に手づくりクラブハウスが完成。そしてグラウンドは母なる河「大野川」河川敷を活用しました。

大分市行政と度重なる調整をし、クラブ関係者、川添地区住民の手で草取り、整地全てを行い、見事なグラウンドを誕生させました。

現在は少年サッカーやグラウンドゴルフ、パラマーター等の活動拠点ともなり、管理も子ども達やクラブ員が率先して行っています。



完成したグラウンド 視察も多い

クラブ内には多くのサークルが存在します。活動の一環として地域外のクラブとの交流が大きな目標となっていますが、これまで輸送の手段を持っていませんでした。毎回、自家用車が有料レンタカーの活用です。



バスと手づくりクラブハウス(後方)

こんな時、大分県から県が所有するマイクロバスの払い下げの通知が大分市にあり、次に大分市教委からなのはなクラブへも声がかかりました。事務局長がすぐに手を挙げ、数度の選考会を経て、最終的に2団体が残り、抽選ということになりましたが、最後には相手が辞退して、ここに、なのはなクラブの占有バスが誕生しました。

現在では、年間の利用回数は50回を超え、使用料はクラブの運営費として潤っています。もちろん、維持管理費はクラブ持ちです。

なのはなクラブのモットーは、「まずやってみよう！ 失敗したらそのとき考えよう！」です。

この積極さとパワーが行政を動かす、地区住民の合意形成を得ることに繋がっていきます。全国的にも珍しい「全戸会員制」を実施できた裏にもこのパワーがあったと思われます。

これまでの地域スポーツの振興は行政主導でした。しかし、21世紀の振興策は大きく転換を余儀なくされています。

行財政改革が進む中、地域住民の力を役立てる工夫こそが地域スポーツ活性化の切り札です。

住民の意識の中には、まだ、「行政がやってくれる！」と信じている人が多くいます。地方に行けば行くほどこの考えは顕著です。

総合型地域スポーツクラブの特性を考えますと地域住民主導の度合いを増やしていくことがクラブが育つ要素になります。



グラウンドでサッカーをする子どもたち

「行政といい関係！」行政に要求や文句を言うのではなく、行政と何がタイアップできるのか、そんな思いが「いい関係」を生んでいくのでしょうか。行政も補助金のみが支援ではなく、支援のあり方を工夫し、より住民（クラブ）サイドで考えて行く。総合型地域スポーツクラブの発展の鍵も意外とこんなところに潜んでいるのではないのでしょうか。

（土谷忠昭：地方企画班員、大分県クラブ育成アドバイザー）

【川添なのはなクラブ・プロフィール】

設立年：平成 19 年 3 月

会員数：6,777 名(1950 戸) 会員率：100%(地域外会員有り)

年会費：一世帯 1,000 円、校区外 500 円、スポーツ保険別途

年間予算：6,134,000 円(平成 21 年度予算)

活動種目：26 イベント数：8

活動拠点：川添小学校、河川敷グラウンド、公民館等

クラブマネジャー：有(月、水、金、クラブハウス勤務)、有給

連絡先：〒870 - 0276 大分市宮河内 4547-1

TEL/FAX：097 - 529 - 2323 Email: kawanano@oct-net.ne.jp

URL： <http://genki365.net/gnko02/mypage/index.php?gid=G0000148>